

令和6年度 第2回長崎市文化振興審議会 議事録

日 時：令和6年5月16日（木） 17：00～19：00

会 場：市役所7階 大会議室

次 第：1 新たな文化施設の整備について

次第1 新たな文化施設の整備について

【事務局】資料1 新たな文化施設の整備について説明

【会長】

説明をいただいたが、審議に入る前に3点程申し上げたい。

審議会で、基本構想に始まり基本計画、かなり長い時間かけて議論してきた。委員の皆さんの各分野での豊富な経験、熱い思い、未来の長崎に対する期待がぎっしりつまったそんな基本計画を私たちは作ったと自負している。その基本計画は一部であるとは言えども見直せと言われたら委員の皆さんはなかなかはいとは素直に受け入れにくい状況ではないかというのが懸念すべき1点目。

2点目、とはいえ物価高騰という現実がある。だから審議会としても何らかの策を練らねばならない。全然協力しないとは言わないが、ただどのくらい面積を減らしたら良いのか、どのくらい金額を落としたら良いのかが無くて、ただ目についたところをぼんぼんと言われてもなかなか審議がしにくい。

3点目、今後官民連携の方法をいろいろ探っていくというある段階でPFIに代表される官民連携の方向が見えたときまた審議会で案について縮小なり見直しなりが出てくる可能性もあるような気がする。そういう流れの中で今ここで見直しすることに果たしてどれほど意味があるのかは懸念する点。

委員と議論する中でただ紛糾するだけではもったいない。

1年かけてまちづくりの皆さんと議論し、市長のコメントも含めると、まちの賑わいにつながる施設ということだった。それを進めるうえで、少しそういう方向から遠ざかるのではないかという心配がある。

その3点について、そういう懸念がある。

【事務局】

様々な知見、ご経験を含めたところで長い時間議論させていただいたことは私もそのように認識している。

一方で会長からもあったように、昨年4月に基本計画を策定している。その前に基本構想があったが、基本計画の策定に向けては2年以上、具体的な議論をしてきたのは約1年ちょっとと考えているが、やはりそういった時間の経過の中で、説明でもあったように、他都市の状況や当然物価もそうだがいろいろな社会の状況というのは変わってくる。それをリアルタイムに反映しながら計画できるかというとなかなか難しい部分もある。そういった意味で少し現状をリアルタイムに反映できていない部分、またいろいろな社会状況が変わってきている部分、ここにあるようなLEDはまさに技術革新がその間に起きてきて、やはり見直しが可能ではないかと思える部分が出てきているというのは事実であろうと思う。そうい

った中で、これまで長い時間、また多大なるご経験をもとに議論してきた成果、要件をもとに改めてまた皆様の知見とご経験をもとに見直しが可能なのかどうなのかについて実際の利用実態も踏まえたうえで見直しができるのか難しいのかをこういった社会状況の変化もご理解いただいたうえで冒頭あったように一緒になって同じ方向を向いて協議をさせていただけないかと考え、今回の案としてお示しをしているので、会長からもご指摘があったが、ぜひそういった点をご理解いただいて忌憚のないご意見もいただきながら、また深い議論、より良い議論につなげていければと思っているのでぜひご協力をお願いしたい。

【会長】

今日の話の中で LED は皆さんそんな異論が無いような気がする。
他都市の新しいホールを参考にするのは良いが、使ってみた利用者の声、あるいは何年か使ってみて実際どうだったという検証ができていないか。実際そこを作った人、使う人、お客さんの声というのは必ずしも反映されてないので慎重にすべき。協力しないわけではないが数値目標的なこの辺までというのは全く無いまま話を進めていくというスタンスか。それともこのくらいというのは共通の目標としてあるのか。議論を進める前に整理をさせてほしい。

【事務局】

会長から目標の面積が無いとなかなか議論がしづらいのではないかというお話を頂戴した。ただ一方で、今回会長からもお話があったように、ここに書かれている内容が実際に利用される方々、また運営も含めたところで可能なのかがまず大事と思っている。そういった意味で面積を何㎡と先にラインを引いてしまっただけで無理矢理それに合わせるというようなことは、こういった施設で必要な機能、規模は確保するという考え方に基づくと、やはりそういったラインを決めてそれに沿った形で議論するというのではなく現状の社会状況を踏まえたうえでここまでは可能だ、ここまでは必要だとの議論の結果として面積が出てくるという形が適当ではなからうかと思っている。

【会長】

議論する前に少しだけ整理をさせていただいた。委員の皆さんからご意見をお願いしたい。

【委員】

今の説明を聞いてると、大きな箱を作れないから小さな箱にしようという印象しか受けない。箱の問題だけにとらわれているみたいで、この新しい文化施設から文化を発信していこうってそれだけの誇れるものを作ろうって言って一生懸命協議したのが今まで決めたことが全部だめになっている。

LED の問題、舞台照明を 40 年やっているが LED でやっている劇場は無い。備えているとこ

ろはある。ボーダーライトとか前明かりとかただ明るくするだけだったら LED でいけるが現状の舞台照明演出という面からは、ハロゲンでなければ、LED では表現ができない。だから、この先どうなるか分からない、もしかしてこのホールが完成する時には LED がもっと進化してできるようになるかもしれないが、今の段階ではまず無い。

大迫りも、舞台上で芝居をやっているが、迫りがないところでは芝居はやりにくい。日舞もそうだと思うが、やはり小迫りや迫りがあればそれなりの演出の使い方があるし無い劇場に行ったら無いで終わってしまうので、備えるべきと討論してこれはあったほうが良いとなった。ブリックの大迫りは大きすぎる。使い勝手が無いから使わないのであって、使う演目じゃなくて使い勝手が無い。二回りくらい小さかったらもっといろいろな使い方ができる。今度新しく劇場作る時にはそういう議論もしながらしていったらどうかという議論もできると思う。

だからこれはだんだん縮小して小さくするためにはどうするかということを一方的に決められたことであって、これは誰が考えたのだろうと思う。結構全国いろいろな劇場を仕事で回って見てきてはいるので、それぞれにそれぞれの事情があると思うがあまり他と比較すると他の劇場はこうだからうちの劇場はこうしようという見習う、右に倣えという劇場ではなく長崎は長崎で発信していくための必要なものを長崎の文化人が集まって話をした劇場だからやっぱり長崎特有でいいと思う。それをお金がないからちょっとこれは削減という話はこの文化振興審議会の中ではお金の話はすることではないという気がする。文化の振興について話すことであってお金は違うという気がしないでもない。今回印象的には文化のことはまるっきり触れてなくてただ箱を小さくしようという意見しか聞かされていないというのが印象なので、ちょっとこれを考えていただければと思う。

【委員】

当初基本計画を作る時はこの文化振興審議会の委員会に携わるメンバーと臨時委員の専門的な知識を持った方を入れて事細かにいろいろな意見を言いながら戦わせてやっとながったものだと思うが、この見直し案に関しては計画を作るにあたって携わった専門の方の意見を聞いたうえでこういう形になったものなのかそれとも全然別の建築等の方達の意見でこういう削減の案を作ったものなのかそれをお聞きしたい。さっき会長や委員も言われたようにかなり長い時間をかけて長崎の文化振興のためにはどういうものが必要なのかということを熱い思いで話をして専門の人達の意見もいろいろ聞いて戦わせながら長い時間かけて作ってきたものがほんの数ヶ月くらいでころっとこんなふうに変えられてしまうのは寂しいという思いがある。どのような意見を聞いてこういった削減の案になったのかお聞きしたい。

一番大事なものは長崎の文化を振興するためにどういった施設が必要なのかということも原点で帽子に合わせて頭を削ってはいけけないので一番守らないといけないものは何かということも大事にしないといけないと思っている。

長い時間をかけてやっとここまでたどり着いて議会に出して予算をとるところまで行きながらちょっと変わってまず作るところを考えるので1年延びてそして今度はこれも見直そう、もう少し考えようとずっと話し合うだけで終わってしまって結局いつ建つのかというような時期の問題は大事だと思う。段々時間が経っていけば技術も進歩していったあの時は無かったけど今度はこんな新しいのがところどころそうやって変わっていったらずっと建たないで終わってしまうのではないかと、そのうちに人口も減っていったら予算も無いしもう作らなくて良いんじゃないかとなるのが一番怖い。だったら最初から公会堂残して改修すれば良かったんじゃないかというところに戻ってしまうので住民投票もできなかったから、その歴史も踏まえて考えていただきたい。

【事務局】

皆さんからいただいているように基本構想、基本計画でこれまで議論してきた内容をしっかり踏まえるというのは我々も頭に置いている。お尋ねにあったどういったことでこの案を出したのかということだが、我々としては令和に入って建った他都市の施設の状況を聞いた。物価高騰があっている中で、その中でそういった施設がやっている様々な工夫や運営の状況をお聞きした上で今回それを文字にして落としている。ここでご理解いただきたいのは、あくまでも何も無いと皆さんのご意見もいただけないので、まずは市で現状の施設のご意見をいただきながらこういった工夫ができないかという我々の問いかけでもある。委員からあったように専門的なところの立場でできるものがどれでできないものがどれなのかというのを本当に皆で検証していきたいと思っている。ただあくまでも長崎市の厳しい財政状況の中で基本計画で決まっているのでそのままということにもなかなかいかない。物価高騰がかなり進んでいるのでそういった中で皆さんの意見を聞きながら少しでも工夫やアイデアでできることがあればそれを皆さんで探っていきたいというのが1番の目的なのでそこをご理解いただいて今日結論を出すということでも無いし皆さんで持ち帰っていただいてそれぞれの団体でご意見をいただくとかまたお時間を取っていただいてじっくり見たうえで意見をいただきたいというふうに思っているのでもよろしくお願ひしたい。

【会長】

専門家の臨時委員の方々に相談されたかというのはどうか。

【事務局】

臨時委員にはまだお話は聞けていない。アドバイザーには現在の他都市の状況もお聞きしながら今お示ししている資料を提示している。

【会長】

アドバイザーが作ったのではなく意見を参考までに聞いて文化振興課が案として作ったと

いう理解で良いか。

【課長】

そうである。

【委員】

アドバイザーの意見は聞いたということだが、どう考えても削減ありきでどういったことだったら削れるかで考えてそれに見合うあそこはこうしているというのを貼り付けたようにしか聞いた感じでは感じられない。見直すとして予算が無いから文化施設のことだから文化施設の中で見直すというのもどうかと思う。他のところで市の財政の予算を削ってこちらの方はというのが、長崎市の文化事業に対する姿勢というのがこの審議会でも幾度となく話しているが非常に軽んじられているようにしか感じられないという部分がある。施設のこともちろん国民文化祭に対することも然り。だから文化施設以外のところで見直すことができないのか。たとえば、こんな立派な市役所が建った。駅前にはMICE施設ができた。あれが途中でこういう話が出たらあそこを削ってこっちに回せないかとかいう話もできたけどもうできてしまったからにはどうしようもない。建てた者勝ちみたいなことになったらなんか忸怩たる思いがするがいかがか。

【委員】

これを見て時間稼ぎをしているのかと思ってしまった。やはり文化団体としてはいつできるの、いつ着工するのと意見がそこに集中してくる。そこで基本計画の66~69億円でできないことはもうわかっているわけだからそこで少し妥協案を出していこう、どこまで削れるかを皆の意見を聞きながら時間をその中でどんどん使っていく、こういった思いができてじゃあいつそれは官民連携の手法も具体的なことが何もできてこない中でこうして基本計画を少しずつ削っていくその中で時間をどんどん費やしていく、市の方のご苦勞もよく分かるが私達文化団体としてはとにかく一日でも早い着工というのがあるから、官民連携ということであればそこをもっと具体的なものを打ち出してもらわないといきなり計画だけを削られるのはちょっと納得がいかない。あくまでもこれは時間を稼ぎなんとかなだめるといふうにしか捉えられないと思っている。

【事務局】

官民連携の話が出たが、皆さんにお示ししているこの議論を終わらせて官民連携ということでは決して無く、同時並行で官民連携の話もさせていただいている。具体的な意見というのは実際に民間の事業者からご意見をいただいたうえで皆さんにもお示ししていくということになるが、その中で同時並行で物価高騰や環境の変化に対応できる工夫ができないかというものをさせていただいているという状況。

【委員】

そもそも審議会の委員として発言をしているわけだが、一方ではこの会場、舞台を使うという立場でもある。市で検討される中で実際舞台を利用される方々の意見を直接聞いてそれを案の中に入れ込むというようなことはされないのか。

【会長】

基本構想を作る段階で市民団体にはアンケート調査をし、何度もやり取りをしている。基本計画を作ったときにはパブコメという形で市民の皆様の意見も頂戴している。できあがったものについても皆さんそれぞれの団体についてやり取りはしている。ただ今日出てきた見直し案についてこの段階で利用者の意見を聞くということか。まずはこの審議会でちゃんと意見をしたいと思っていた。これをいきなり持って行っても蜂の巣をつつくみたいになりかねない。

【事務局】

まずは今回初めて皆様にお示しした資料なので一旦は審議会の皆さんでご議論いただきたい。そのうえでそれぞれ皆さん審議会の委員という立場であられると同時に各団体の代表として来られている委員なので先程も申したが今日ここだけの議論で結論を出すということではなくてそれぞれの母体に持ち帰っていただいて声も集約していただいたうえでまた次回の審議会でその団体の意見をお出しいただくということもあろうかと思うし、そういう形で広くご意見をいただきたいと思っている。よろしくお願ひしたい。

【委員】

皆改めてこの場に集まってさあ新しい文化施設どう作ろうかという改めてのスタートの回の今日だったと思う。その中でまずこの見直しありき削減ありきで削減削減と並んだ案を提示されて、対峙する関係ではないので良い文化施設をぜひ作りたいというところでまずこの場をもって、しかしながら現状では削減が必要ということがあって、なので少し削減などの見直しを一緒に検討できないかという前提がまず示されればそのテーブルに立てるかと思うが、ちょっとまた気持ちがくっつと落ちてしまうそんな会議のスタートになってしまった。感想になってしまうがぜひこういう施設を作りたいとの思いをいっぱい込めて時間をかけて作ったプランがまずあって、でも市としてはというところが示されないまま削減削減と並んだ、そしてすごくハードの部分、お金に直結することなんだろうとは思いますが、そういった示され方で提示されたことにやっぱり皆さんとぜひここで改めて考えようという場としては残念な形だと思っている。

【会長】

おっしゃる通り。対峙するんじゃなくて一緒に作ってこうという気持ちはあるとは思

が、ただご説明の中でそもそも文化施設で何をやるかということが語られずに具体的にここは削れるんじゃないのという説明だったので、我々審議委員としてはそこはちゃんと抑えているよねという気持ちは分かる。

【事務局】

配慮が足らず申し訳ない。皆さんと一緒に基本計画を検討させていただいた中で当然、基本構想があつての話だったが改めてそこはちゃんと話をすべきだった。もちろんこの施設のあり方、基本構想にあるようにどんな場所にしたいという目指す姿は当然文化振興課としてはそこは当たり前を持ったうえで、そのうえで削れるところだけが見えるような話し方になってしまい本当に申し訳なかった。私たちもどこが見直せるかというところを考えていく中でどうしても細かい部分になってしまったところは目指す姿を達成するためにここは絶対必要だという部分、やはり譲れない部分があつたので、そういった見え方になってはいるが、根底にあるのは基本構想の考え方。そこを設計に具体化していくにあつての基本計画、当然設計の中で少しずつびったり1㎡も変わらないということは無いので、そこで見直しを掛けられる部分は今後出てくる部分だったが、そういったところを前倒しでその分のタイムラグを少し前に考えられないかという視点があるので、構想が基になっているところは間違いないので補足させていただく。

【委員】

私がこの委員を務めさせていただいてからずっと同じトピックについて話しあっているように思うが一刻も早く着工にたどり着くべきだと考えている。

【委員】

今の市の説明は大変よく分かった。皆さん一緒に案をこうやって組み立ててきた仲間だからそれを踏まえてのお話だというのもよく分かった。今ここにいろいろと見直し案を考えてくださってるが、これがもし全て飲まれたら直ちに着工できるのか。

【事務局】

まずこれが仮に現実的になるとした場合に実際に面積がどれくらい削減されてそれがいくら費用に反映されてということになっていく。そうなると文化施設の形自体は概ね出てくるが一方で先程の話に戻るがあそこの土地に文化施設だけを建てるというお話では今無くしてあの市役所の跡地をいかに交流の場にするか賑わい創出する場にするかということで民間事業者の提案もいただいて、文化施設以外の機能も付加した形で考えたいという考えに立っている。したがってその文化施設の部分がこれで決まってすぐ着工とは直接にはそうならない。まずは民間事業者の提案をいただきながら、提案をいただく中には、例えば設計を進めていとか建築をしていとかそれからその先建ったあとにどういう運営をしてい

けばいいかというところまでご提案をいただくことになっているので、直ちにこれが決まったからといって着工というスケジュールにはならない。

【委員】

他の地域に建てられた施設を見るとこういう見直しも可能ではないかという投げかけがここにあるわけだが、本当にこれでいいのか先程のハロゲンランプの話も確かに簡単に割り切れるものばかりではないと思う。そうするとこれだけの多分建設費の縮小につながるであろう項目が挙がっているが、これについてまたいろいろな我々の意見であるとか他の専門家の意見を聞かれてある程度飲めるものが固まったとする。今後の流れはどういうふうになるか。先程早く着工にたどり着いてほしいとの声があったがそれは皆そう思っている。再度その見直しが図られた場合、この後どうなっていく頃に賑わいをもたらす施設との共存も考えつつというのは出せないか。

【事務局】

具体的にいつ頃というのはまだお示しができないが、今後民間事業者の提案をいただく中でいろいろな質問も来るだろうしそれに我々がお答えする材料が必要になってくる。その中には当然文化施設の大まかな規模とか機能とかもこちら側でしっかりお答えできるようなものを示していかないといけないのでまず同時並行でこの議論をさせていただいている。そういった中でそういうことであれば民間事業者でこういう提案ができるとかこういう手法があるということ踏まえながら進めていく。少なくとも我々は完成を先延ばしするためにいろいろな宿題を重ねているわけではなくてあくまでもできるだけ早くというのは考えてはいるがその前にクリアすべき問題をできるだけ1つずつ早く着実に解決していきたいという思いであるということはお伝えしたい。

【委員】

民間の企業と一緒にという話が出ていて、サウンディング調査を始めるというのは前提で今進められているということか。

【事務局】

サウンディング調査をするというのは予定している。

【委員】

企業が入ってきて企業が先頭に立つ。そこをいろいろ調査するだろうがただ今まで私達が考えてきた基本計画があるがこれが企業が丸々これはこれでいいと思えるのかどうかちょっと不安なところがあり、やっぱり企業は売り上げ優先で持っていくとは思う。文化のためにこんなことをしていたら売り上げが上がらないとそういう対決もあると思うがその辺

はどう考えているか。

【事務局】

少なくとも文化施設とそれ以外の物ができるとしても今我々が考えているのはあくまでもこの基本構想、基本計画にある長崎に必要な機能はしっかりと守っていきたいと考えている。そのうえであそこの土地でどのようなアイデアとかどのような提案でさらに交流を生み出せるか賑わいをもたらすかというところのご提案をサウンディングをしながら作っていきたい。民間事業者が例えば席を減らしたほうがいいとか、ここは削ったほうがいいとかそういうお話ではなくて、もしかしたらそういうご提案をされる民間事業者もいるかもしれないが、それはあくまでも対話の中で我々が説明していく。

【委員】

PFI 事業の実施ステップというのを前回もらったが今からこのステップを踏んでいくという考え方でよいか。

【事務局】

その通り。ただあくまでもサウンディング調査と最初に我々がやろうとしているものは、PFI も含めて官民との連携の事業実施が可能かどうかというその可能性を探るところが一番の目的なので、まずはそこを踏まえるという形になる。それで可能性がもし出てきたらそこに示してあるようなステップを踏んでいくという手順になるかと考えている。

【委員】

結論を出すのがいつになるか分からない。

【会長】

それは困る。私が思うに PFI もいろいろ方法があって文化施設でうまくいっている例、うまくいかない例、データを十分持ってらっしゃると思うがそれは過去のデータで今これだけ円が苦しんで物価高騰している状況の中で非常に厳しい道だというふうには思う。だからといってそれに無駄な時間を掛けたくない。もう1年我々はブレーキがかかっている。いつまでも分からないということでは困る。

【委員】

官民連携の例を挙げて東京の国立劇場、去年の4月最後の舞台を踏ませていただいた。若い頃から何回となく出させていただいた舞台上、大劇場小劇場そして存在感のある大変立派な劇場。楽屋も大変綺麗。やはり日本舞踊とか歌舞伎とかでとても綺麗に使ってあり劇場も立派。こんな劇場を崩すなんてもったいないと思ったがやはり50年ぐらい建ってる劇場だ

そうで建て替わるということで去年で閉鎖されてしまった。ホテルとかそういうのを入れて民間の事業者も入れる予定で当初は令和9年にできあがるという予定だったのが2回にわたる入札不調で全く見通しのつかないような状態になって、役者さんたちが声をあげていらっしゃるが、東京でもそういうことなので長崎で民間の方が入ったときにどうなるのかと、非常にまたそこで遅れるんじゃないかという心配をしているので何かやはり対策をその前にしていただければと思っている。

【委員】

ずっと今皆さんのお話を聞きながらこれからサウンディング調査に入っていくということだ企業のご意見を聞いていくということだが具体的にどういう企業相手にそれを投げかけて聞こうとなさっているかが決まっているのであればそれを教えていただきたいのが一点、それともしそこで誰も手が挙がってこなかった場合に例えば PFI でやろうという今の長崎市のお考えを諦めざるを得ない状況が出てくることだってあるのではないかと、可能性としてそうなった場合に立ち戻って例えばまた長崎市の直営とか例えば指定管理のシステムに戻すだとかそういう方向になる可能性も頭の中には描いておられるのかどうかをお聞きしたい。

【事務局】

まずサウンディングの相手先は、できるだけ広い事業者をお願いしようと思っている。大まかに言うと一つは建物を建てる側のデベロッパーには当然、それから逆に運営する側の方にも実際に聞いてみたいと思うし、特に文化施設をいろいろな地方で運営をなさっているような事業者にはできるだけ意見を聞きたいと考えている。もしだめだったらとのお話があったが我々としては現時点ではあくまでもこの事業実施を可能にすることが目的でサウンディングをやるということなのでまずはその可能性をしっかりと探っていきたいと考えている。

【委員】

具体的なスケジュールは立てられないのが実情だろうが、やはり目標として調査をいつまでいつ着工目途とするという目標ぐらひは掲げておかないといつまで経っても状況に応じて流れによって組むみたいなのは我々も納得できない。そういったところを目標として一応期限を設定するという考えはないか。

【事務局】

この次のステップが、先程申し上げたサウンディングに入っていくという形になるので、その中でまずは事業の実施の可能性をしっかりと探ってそれが可能だということであればどのくらいの期間かということもしっかりと民間事業者からいただいておりますように整

理をしていきたいと考えている。先程委員に私がデベロッパーとかソフト事業者と言ったが、その他に聞く範囲はたくさんあるが、一般的には私が申しあげたそういうところに聞くサウンディングが多いのでその辺はしっかり外すことが無いように聞きたいということである。

【委員】

サウンディング調査が終われば一応どのくらいの時期っていうのが一通り目途が立つぐらいの考えで良いのか。いつぐらいまでにその調査を終えようという目標ぐらいは設定できないのか。

【事務局】

まずサウンディングをやっていくというこれまでも説明したとおりだが、サウンディングの内容も種種あるかと思う。それを整理する中で進めていくというところで今明確にいつまでというのがお示しできない状況。文化ホールもいろいろな形で建設のパターンがある。PFIだと通常作っていく中で指定管理とかコンセッションという民間の活力を使うというやり方もあるし周辺の民間収益施設もどのようなスケジュール感を持って民間が独自に取り組まれる内容になるかと思うので、そういった部分がどういう提案があって長崎市とどのような形で一緒に協力結んでやっていくかというそのスキーム、手法づくりもあってこようかと思うので、まずは明確なお答えになってないが、繰り返しになるがサウンディングの状況をしっかり把握してその内容を整理してからお示ししていく。その時期は皆さんにもしっかり都度都度お示しをしていきたいというふうに考えている。

【委員】

しつこいようだが今の時点ではっきりとは言えないというのは分かる。じゃあいつ頃になったらという大体の目標ぐらいは設定できないか。

【事務局】

繰り返しになるがまずサウンディングをしっかりやる。その結果をしっかりと示していきたいというふうに考えている。いち早くという気持ちは非常に受け止めているのでその部分をしっかりと進めていきたい。

【会長】

噛み合わないが、今伺ってちょっと不思議に思うのは民間の企業に投げてその企業のペースで進めていくという説明だったがそれは違うのではないか。長崎市の計画を持っていてその計画に合うような企業を選んでくる。民間から投げてもらったものに乗かってそんな悠長なことを言っているからいつまで経ってもできないとなるような気がする。それが

主導できない原因として推進体制としてちょっと文化振興課の範疇を超えているところはあるような気がする。前も申し上げたがやはり推進室みたいなものを作ってそこに権限責任そして専門の方を加えて進めていかないとどなたも判断できない、様子をうかがっているだけでどうにもならないようなふうに聞こえてしまうがいかがか。

【事務局】

先程お話ししたように時期的な部分は申し訳ないが現時点で明確にお伝えできない。今会長から責任権限というお話もあったが、時期を明確にお示しするというのはこれは責任ある回答は現時点では困難な部分があるのでそれはご理解をいただければと思う。そのうえで組織の話もあった。今会長からもお話があったが、我々は決して時間稼ぎとの言葉もあったがそういった考えで行っているわけではない。委員からもあったように少しでも早くとその気持ちは同じで、一方物価高騰など環境の変化という部分もあり官民連携の検討というのもあり、その官民連携の検討の結果としてそれが費用面、市の財政負担の軽減にもつながってくるというのもあるのでそちらの方も検討している。それを並行してすることで例えば社会状況とかの変化の部分だけ先にしてその後に官民連携をしようというのと時間がかかってしまう。でもそれを並行して行うことで少しでも時間が短縮できるんじゃないかということで今回一つ考えられる見直し案としてこちらの方はこちらの方で進め、官民連携 PPP/PFI のサウンディングの方はサウンディングの方で鋭意検討しながら少しでも早く進められるように現在検討しているという状況。そういった意味でも委員の皆様のこれまでのご意見をしっかりと受け止めながら時間軸は意識した形で現在も対応させていただいているのでまずは少しでも一つでも二つでも先に進めたいというふうに考えている。

【会長】

今のお話を伺うと新たな体制を作る気持ちは無くて今の体制のままで皆さんの意見を聞きながら時が来ればみたいなスタンスで運営をされていくというようなことか。私はそうではなくてこれだけの時間がかかっているのだからやはり少し前に進めていくような予算企画財政というところにもちゃんと影響のあるような方達が推進チームを作ってそしてその頭に市長さんがいらっしゃるのだろう。そうしないと去年1年間時間が経ってまだ皆さんの意見を聞いて進めていこうというのは組織の作り方としていかがなものかなとちょっと提案するが部長と私はその辺は意見が合わないか。

【事務局】

会長がイメージされている組織と少しもしかしたらずれがあるのかもしれないが、組織というのは当然市の中で総務部で具体的には検討してということになるわけだが、これはこの件に限らずやはり組織というのはその時々ニーズ、必要性があって当然人数も含めた体制も含めた必要性というのを見てから整理していくものと考えている。一つ誤解があっ

たらいけないので申し上げるが、今の文化振興課の体制という部分では当然この文化施設の整備についての検討を行うという前提でその人員体制は確保している。人員体制はしっかりと整備をしている。ただ別の単独の組織でということではないかもしれないが、芸術文化の振興というのをテーマとしている文化振興課の中でそのテーマに則ってまたそのテーマに向かって整備をするこの新たな文化施設の整備の検討も持っているので、そのための必要な人員を配置しているという状況が現状ということなので、それを今後の状況を見ながらこれに限らずだが組織というのはその時々状況を見ながら必要な体制を取っていくということなので、それをああするこうすると私がこの場で、現時点で申し上げるというのはちょっと難しい部分があるのでそこはご理解をいただきたい。

【会長】

現時点で言うことはできないというのは分かる。私とはイメージが少し違うというのも理解できた。それで推進するためにはどうかというのも思った。気持ちとしては推進してほしいと思っている。

【委員】

しつこいようだがやはり期限は、市役所も我々に何事かしようという時には事業計画をいつまでに出してくださいと期限を切ってされる。今は言えなくてもいつまでにこれぐらいはこうしようというような計画は立てるべきだし期限を切って業者の方にも発信をすべきではないかと思うがいかがか。

【事務局】

今お話があったが当然期限はその根拠その積算ができる時には設定をするものであろうと考えている。今回サウンディングをして様々な事業者の方のご意向をまずお聞きしようと、その結果が分からない中でその後の動きも変わってくる中で具体的な時期をお示しするかお答えするというのはやはり困難だろう。だから非常に不透明な不確定な要素がある中ではっきりとした時期を定めるのはそういう意味ではやはり難しいのではなからうかというふうに考えそういうふうに回答させていただいたところなので、ご理解いただければと思う。

【委員】

質問の仕方を変えると今年度予算としてこの新しい文化施設に対して使える予算を計上してらっしゃると思うがそれはサウンディング等の調査と PFI 等について調査し検討するそういうところか。それともそれ以外に何か別の形を考えて例えば着工なんて元々先のことでさっき出てきたがその前に建築のプロポーザルがあり PFI があるというのは次年度になるとかそういうのはあると思うが今年度の事業の落としどころとして考えている予算はど

ここまでだけ教えていただけるか。

【事務局】

今年度の予算という話で申し上げると例えばこういった審議会は報酬が出るのでまずこういった審議会の予算というものはある。ただ2月議会の中で今後まずサウンディング調査をさせていただきたいとお話をさせていただいたその時点でサウンディングの予算をあげているわけではない。従って今後行っていくサウンディングの予算については現在無い。

【委員】

もう一点違う質問だが、長崎市で PFI を導入して行った事業というのがいくつかあると思うがその事例とその評価について聞かせていただけるか。

【事務局】

長崎市の PFI はいくつかある。古いところでいけばまず市民病院、これは運営を病院の機構が受け持っているので、設計と建設をして維持管理までが入って運営が別に入ってきたというもの。それと長崎市立図書館。これも今は期間が過ぎたので次の指定管理を別のところが取っているが当初は設計建設運営。次が給食センターあたりが入り、近年でいけば令和3年に完成した長崎駅の裏の出島メッセ長崎、これをヒルトン長崎であるとか NBC の社屋と合わせたような複合的な形で PFI 事業を行っているということで今まだ開業間もなくということだが滑り出しを行っているというところ。内容については以上で今後給食センターあたりも含めてまた取り組んでいくというような状況。

評価という点は非常に難しいが VFM、Value For Money というものがあり、やはり官が直接施行して公的負担を払うよりもそういった民間にお任せをして進めていく中で出てくる公的負担の削減部分を VFM と呼ぶが、いずれもその部分が出ていて公的負担が削減されて今のそれぞれの PFI 事業が成立しているというような状況。

【会長】

市内では5件ほどあると思うので専門の方は分かってらっしゃると思うが我々は必ずしも明るくないので分かりやすくまたもうちょっとお話ししていただくとイメージが掴みやすいと思う。またお話を聞かせていただきたい。いつ建つかというのもどれくらいお金かかってといろいろある。

皆さん今日の資料持ち帰っていろいろ意見を聞く場面もあるかと思うが、ちょっと私からその前提として2つほど。1つ、練習室、これは創造支援機能としてこの会議の中で絶対いって言っていたものの一つである気はしているが、練習室は日常的に人が集まって賑わいの場でもあるし、若者たちがそこで次の文化を作っていくので、先程の説明だと足りていないからブリックホールの会議室を練習室にする、それがあれば足りていないという状況

は解決するという説明をされた。全然解決されないと思っている。この一番広かったところをなくすなんて、市民会館もどうなるかわからないという状況で全然足りていないと思う。それはちょっと認識が違うという意見。それから前の会議の中で将来構想としてブリックホールの国際会議場や会議室を工事するためには大ホールを閉めないといけない、今の状況では大ホールを閉めて工事ができない、その状況で練習室を早く整備する見通しについて、夜間工事でもするのか。

【事務局】

ブリックホールの練習室への改修についてはまだ具体的な期間というところはないが、考え方としては早期に行う方法の考えられる一つとしては毎年度大体1月から3月の頃舞台の大規模改修を45日程度舞台は使わない状態で音も響くので他のところも会議室等も影響があったりするのだからお休みの期間というのがある。その中で少しずつというところも1つの考え方かと思っている。その他となれば、実際半年なのか何か月なのか実際に掛かる期間というのを今後検討していく中で影響が全く無いとは言わないがやはり早期改修というところは直近の課題かと思うので、まずは検討はしていかなければと考えている。もちろんハイシーズンにということではなく、その45日をちょっと延ばすとかそういったいろいろな観点から考えられないかと思っている。まだ検討段階の考え方で申し訳ない。

【会長】

新たな文化施設がどうなるかとも練習室は足りていないので、そういうことが可能ならそれはそれでさくさくと進めていただければいいと思う。前ここで話した時には閉めなければならぬから新たな文化施設ができた暁にはという説明だったのでちょっとそれと変わってきたというのがある。それとは別に新たな文化施設に練習室は絶対必要と思う。イベントをする時に大ホールだけリハ室だけでは足りない。やはり練習室はセットで、あるいはそこがあって初めて文化施設。ただ単なる貸館ではなくて文化を作るとするのはそこが実は大事。前のご説明で楽屋を練習室で使うこともあるけどもちろん使わなければいけない。でも楽屋はあくまでも楽屋。本番ある時楽屋2つ空いてるから練習室に使ってくださいなんてことはできない。

【委員】

練習室の議論は相当白熱して絶対必要という結論になった。そこが一つの目玉ぐらいな感じで話し合ったところなので、これを見たときにこれ削るかとはっきり言って思った。

【委員】

練習室の無いこういう文化会館みたいな施設は他の都市で多分無いと思うがどうか。

【会長】

昔の古いタイプの公会堂では他県ではあったような気がする。リハーサル室が無いというところもあった。最近はセットのような気がするし、むしろ練習室は数多くあるのが売りとなっているところもある。

【委員】

練習室の議論は随分私達はし尽くしてそれでも面積の都合上この数でしょうがないと諦めたという過程があったかと記憶している。一つの練習室が必要な理由としてはもちろんリハーサルに使うだとかそんな問題だけではなくて、今回新たに作る文化芸術施設は賑わいの場の創出でもあるという認識のもとじゃあどういう施設であるべきか、どういう内容が必要なのかといったときに当然ただ単に練習室が今長崎市に足りないからという理由だけではなく、会館で公演がやってない時に人がそこに集っている、それはやはりそういう練習室があることによって、練習室はほぼほぼ毎日埋まるものだと思う。そこに若者がやってくる。そこで初めて公演がやってない時にシーンとしたホールにならずにあそこのホールはいつも賑わっているということになるんだと思うしそういう議論を私達はした記憶がある。そこをコストのために削るってちょっと本末転倒になってないかという気がした。また改めてコストカットということに話が及んだ時にどうしてもコストカットはハードの部分だけの話になってしまいがちだと思うが、そもそも私達が文化振興審議会で議論してきたのは長崎市の文化振興のためにどういう施設が必要なのかって話を随分議論し尽くしたと思う。その時に今後ハブにして文化施設の発信拠点として長崎全体をコントロールできるような施設を作りたいという希望が皆さんから出て皆さんが賛同したと認識している。それなのにそれがこう削っていったときにそのことは皆頭の中から無くなったのとお聞きしたいし、一緒にこの場に座っていただいていたはずの長崎市文化振興課の方々はその話はお金のためなら無いことにしたいわけという印象を受けてしまう。逆に言えば崇高なポリシーのもと、50年使っていくこのホールが今後の未来の子どもたちのために役に立つのであればそれは50億だろうと100億かかろうとそれが必要だよねと思わせる内容のものを作るという崇高な理念のもとに私達は元々計画したはずなので、物価が高騰したという事情は分かるがそのお金を持ってくるためにPFIなどということを検討なさっているのだと思うのでそもそもそのためにこちらのホール側の私達が要求したこういうことが新たなホールには絶対必要というのを削っていくのはいかがなものかという印象を受けた。

【委員】

さっき施工とかまるっきり分からないと話されていたと思う。市民会館は一応新しい文化ホールができたなら閉めるという話をされていて、ということは新しい文化ホールができなかったら閉めない。でもあそこの耐久年数がもう間近になっている。これで新しい文化施設も建たないのに市民会館も無くなるということになってくるとどこで発表すればいいのか

というそういう懸念というのは考えてらっしゃらないのかという疑問はある。もう一つ、前話した時にもうハードなところは皆でこういうふうにしようって話し合った。じゃあ今度ソフトの面で、これからのこの新しい文化施設をどういう方向でちゃんと発信していくかという組織作りの話をしようというところで終わっていたと思う。その組織作りの中に入りたいと思っていたのでそのことはとても覚えているが、ただそういうふうにソフトな面の文化人が集まってこういう発信の仕方がいいんじゃないか、こういうことやったら面白いんじゃないかとかいうそういう発想をもとに新しい文化施設から広げていこうって話をしたが、またそこで企業が入ってくるとなるとその方達と一緒にするのか、私達で作ろうとしていた管理運営のソフトな面の組織はもう無くなってしまうのか、そのところはどうか考えてらっしゃるのかこの2点だけお聞かせ願いたい。

【事務局】

まず1点目の市民会館の耐用年数だがあと約15年。新たな文化施設が整備されたらその後文化ホールは閉めるという方針は今のところ決まっている。今ご質問があったように建たないままそれを迎えたらどうなるかというご心配だが我々も残り15年で市民会館の耐用年数が来るということは当然ながら認識しているので、先程の繰り返しになるができるだけ早い完成を目指してこれからのステップを踏んでいきたいと思っている。

それからソフト面を考える組織のお話だが民間の方が今後どのような形でこの文化施設のところまで入ってくるかというのはこれは進めていかないとなんとも今の時点でお答えするのはちょっと難しい。しっかりサウンディングを行ってPFI/PPPの可能性も見ていきながら、どういうふうな民間の方がどういう提案をしてくるのかそれから我々審議会の皆さんの考えるべき姿というものをしっかり踏まえて良い形で文化振興を進めていきたいというふうには考えている。

【委員】

もう一つ、例えば今の計画でいうと80億は掛かるから80億は議会は通らない、せめて60億ぐらいに落としてというそういった具体的な話ができれば皆で議論もできるのかと思うが、あれを削ろうこれを削ろうって言ってじゃあそれがどうなるの、どのぐらい反映するのかが全く分からないし、やはり推進室みたいなのを作っていただいて、MICEの推進室を作ったときの室長はとても指揮権があって皆にどんどん意見を言って、皆を引っ張っていったというとても印象が強いので、だからそういうことを考えればやっぱり会長も言ってらっしゃったが私も本当にその意見に賛成。推進室があれば安心する。そこでなにか聞けば現状が分かるとか、今どうなっているかとその推進室に聞けばもう今こういうふうな段階なのでもう少しでこれくらい着工になるということがあると思うが、今の時点で文化振興課にそのことをどうなっているかと電話しても多分じゃあ担当は誰かという話になってしまうと思うのでそのところはどうしても私の中で腑に落ちないところがあって、作ってい

ただけないものかというのをお聞きしたい。

【会長】

この話は先程申し上げたが今の段階で回答は難しいような気がする。でも要望があったことだけはしっかり受け止めていただきたい。

確認だが、15年というのは15年間ホールの舞台も使うということか。

この前この会議で舞台で修理しないといけない、それには年間3千万掛かるからホールは閉めるとのことだったが、ホールは15年間使い続けるのか。建物は15年だがホールはどうか。

【事務局】

ホールについては、その15年の耐用年数を待つことなくそれより前に閉めるというのが現在の市の方針。

【会長】

文化施設ができなくてもホールは閉まるかとの質問だったが、市民会館全体ではなくて我々が気になっているのは文化会館のホールだと思うがその辺はどうか。

【事務局】

まず一度ここで生涯学習企画課の課長が来て説明したがその時の説明として前提として新たな文化施設が整備された後にその時点ではブリックホールの国際会議場の改修をまず行ってその後に市民会館のホール機能だけを閉めると、ブリックホールも稼働率がすごく高いので一気にはできないというところでそういう順番があるというところが1つ。もう1つ、金額についてはあくまで直近の改修の照明関係の大きな工事が予定されていたがその時点でその金額が1億いくらかというところなので引き続き使うとなれば当然それ以上の改修費というのは出てこようかと思う。

【委員】

結局、市民会館ホールはいつ閉めるか、新しい文化施設ができたら閉める、じゃあ新しい文化施設はいつできるか、それはスケジュールは分からない。何も分からない。だから計画を立てないといけないんじゃないかと、今立たないじゃなくてこういう目標で期限を切ってやるように進めていくと市が主導して進めるべきじゃないかというのを先程からずっと言っているが、現状で分からないのは分かっている。そこを聞いているわけではなく、そういう計画を立てるつもりはないかという話をしている。どうか。

【事務局】

おっしゃるように、計画をしっかり立ててそれを目標にして議論していくということは重要なことというふうに思っている。今からサウンディングに進んでいって民間の事業者のお話を聞くので、そこでしっかりお示しできるような目標も踏まえたうえで民間事業者とお話をしていくようにしていかなければいけないと考えている。

【委員】

その計画をどの段階で立てるのか。サウンディング調査が終了したらその時点で計画を立てるといったことなのか。サウンディング調査はいつぐらいまでに終了するのか。先程予算の話聞いたら今年度の予算にはサウンディング調査の予算は入ってないと言われたということは調査を始めるにしても来年度からということか。

【事務局】

繰り返しになるが、先程も説明したように今サウンディングの調査に向けて検討をしている状況。その内容が固まってないから具体的にサウンディング調査をそしたらいつからするのかとかそういう具体的なことはなかなか今日この場でお話しするのは困難だという部分があるし、サウンディング調査の結果としてどういう結果になるのか、それによって前回お示した PPP/PFI の行っていく順番、ああいった流れも変わってくる可能性も当然あるのでそういう不確定な要素がある中でやはり例えば今日の時点で明確に時期をお示したりとか計画をいつ作るのかというのを明確にお示したりするというのがやはり困難な面があるということをお話させていただいている。当然そういう具体的なスケジュールとか時期とかそれがご説明できるタイミング、時期になれば、またそういう状況になれば、それは適宜ご説明を差し上げながらご理解を得ていきたいというような考えは持っているが、現時点で具体的に説明できる状況に無いからご理解をいただきたいということをお話ししているところ。

【会長】

あまり申し上げても苦しそうなのでこれくらいで多分色々お考えもあるだろうし、こうした審議会というオープンな場で報道関係の方もいらっしゃる中である発言が独り歩きして正しく伝わらないという危惧もあるので、言えること言えないこともあるとは思いますが、ここにいるメンバーは一緒に作っていかうとの気持ちで、意外とピュアな気持ちで臨んでいる。その気持ちにちゃんとある部分ではピュアに答えていただかないとそうでないと一緒にやっていけなくなってしまうからそこだけちゃんとそういう思いがあるから時が来たら議会のこともあるかと思うが、ぜひきちんと説明をしてほしい。皆本当に一生懸命考えているので。

さっき練習室を言ったが、リハーサル室、これができた時小劇場という言葉も考えたが、周

りにはピクチャーレールを引いてちゃんと展覧会もできるようにしている例もいっぱいある。それを考えてちょっと小さくなってしまふのは展示でどうか。

【委員】

話を聞いて削減する方向でお金が無いからということでやっていて、やっぱり最初に審議会を立てた計画をしっかりと全部本当は飲んでやってほしい。逆の考え方だが PFI を入れるというのであればお金をもっと作る方法、減らす方向じゃなくてもっとたくさんそういう担当してくれるところがあって作る方法も考えたのかどうか、お金が無いから減らすというふうになるのか、逆にもっとこういう施設を作りたいといって賛同してくれるところに呼びかけるという方法もあるのかなと、逆にお金をどうにかして作ってくる、それが仕事だと思うが、予算が無いではなくてそっちの方向。

市民会館が近いうちにホールが無くなるのであればもう一緒に考えて、逆にもっと予算を付けて、そして専門的な、市役所跡地には音楽の専門、市民会館の方には舞台の専門的なというもっと大掛かりになるが、先を見据えればもっとそうやって一緒に工事となれば1年2年ぐらいは我慢する時期がこちらの方には出てくると思うが、すごく良いホールができれば満足するんじゃないかという、私個人の考えだが、頭にちょっと浮かんだ。

展示としてはやっぱりちゃちな展示じゃなくってしっかりした憩いの場で皆さんが味わえるような展示ができる場であれば良いと思うが、先程言った、削るじゃなくてもっとお金を作る方の考えはなかったのかなと思った。

【事務局】

もちろん民間事業者の意見をこれから聞いていくうえでは、そういう視点は必要かと我々も考えている。ただ一般的に我々が作ろうとしている文化施設の整備費用を民間事業者が出すというのはなかなか考えにくいと思うがおっしゃるように民間の活力を活用するという考えは当然前提のうえでサウンディングを進めていくという形になるかと思う。

【委員】

お話を聞いている中で削減ばかりじゃなくてやはり他からお金を持ってくるというのがあったら良いとは思った。

練習室はもちろん早期にブリックホールの会議室を改修していただくという問題と新しい文化施設の中に練習室を新たに作るっていう問題は今すごく足りていない状況なのでどちらも解消できるようにその2つで解決するという事だったと思うので、ブリックホールの会議室を改修するから練習室を設置しなくて良いと言われるとやはり話が違うと思ってしまう部分はある。実際ブリックホールのリハーサル室を使う時リハーサル室だけを借りることもあれば、そこで例えば発表会とか小規模のものをしたい時にそこだけ借りれば良いのではなくて結局練習室を借りなきゃいけなかったりとか着替えだったり音出しをする

部屋が必要だったりでその部屋だけで発表会とかイベントができるわけではないのでやはりそういう意味でも練習室だったり楽屋が自由に使えるというのがないと良いが練習室は必要かと思う。

エントランスとホワイエについて、一体型みたいなのは例えば私のイメージでメルカつきまちがそういう感じかと思ってあそこに入るとそのままホールに入る人も会議室を使う人も同じ場で待てるような場になっていて規模感は全然変わると思うが、あそこで発表会をするが、あそこは一緒になっているので、ホールから出る時にお客様のお見送りや出てきた人と交流をしたりするっていうのが遠慮してと言われてしまう。どうしても会議室を利用する人もそこを利用するので、ホールを使う人だけの物じゃないので遠慮してと言われて、ルールなので分かったと言うしかないが、実際それがもっと大規模な千人規模のホールでプロの演奏家さんたちとかがいらっしやったりオーケストラがいらっしやったりする時にオーケストラの魅力って例えば休憩とか出迎えの時間に演奏があったりというのも一つの魅力だが、そういうのも利用者があるから遠慮してとなったりとかあるいは動線としてもホールを使う人はこっちそれ以外の人はこっちみたいな形で区切らないといけなかったりとか動線という意味でも必要なホールの雰囲気作りとかでも、エントランスとホワイエが一緒になったホールもあるとは思っていたが、その利用の感想、実際皆さんどう思って使っているのかとかが調べられたうえでそれでも一体型でも良いということであれば、また審議会の中で教えていただければと思うが、面積を減らしたいから一緒にすればいいみたいな、それはそうだが、実際はちょっと使いづらいと思う。

【会長】

確かに使いにくい面も出てくるかもしれないが、一体型になったときに入場料払って夢の世界に行く楽しみが減ってしまうと思う。普段使えるところだったら行けてしまう。扉の向こうはホールだがその手前の空間は有料の空間。有名テーマパークはゲートでお金を払ったその瞬間から夢の世界。アトラクションがあってそれに乗るとかじゃなく、あの空間から夢の世界。劇場は多分そういう場であるが、それが普段から乗り物の手前まではただとすると劇場の魅力がちょっと減るかと思う。皆さん色々意見があると思うが、ちょっと気になった。ヨーロッパの劇場に行くと入口から違う。その劇場でエントランスとホワイエが一緒になっているなんて考えられない。東京のホールもこの先は有料で特別だとそこにお金を払って行くんだというのは色々ご意見があると思う。

【委員】

その他の機能の事務室を読んだときに車椅子の人はカウンターでちょっと不便じゃないかと感じた。打合せ室は無くても良いがそういう障害者の方にも優しい設計をお願いしたい。それから、まちの賑わいや交流を大きな目標に掲げておられたが、例えば自治会長など地域の方をこういう審議委員に入れる必要は無いのかと感じた。

【会長】

検討いただきたい。

【委員】

最初にこの考えられる見直し案を見たときに、予算をすごく減らさなくてはいけないので見直し案が出てきたというのを第一に思った。それから官民でするとなると今度民間が入ってきたときにまた見直しがあるだろうというふうに思った。決めたことというのはもちろんお金が必要なのでお金が無かったらできないが、ある程度土台になるものはあまり崩さずにしていただきたい。見直し見直しとなると何のための会議かというふうに思えてしまう。

【委員】

私どもとしては、事務室は必要と思っている。やはりきちんとした個室があったほうが、劇団を迎えるために例会で打合せをしたりその他いろいろな諸道具を運んでくるので、やはり個室は必要と思っている。

それから最初思わず時間稼ぎをしているのではないかと行ってしまったが、私はまだ審議委員になって3年しか経っていないが、この間公会堂問題から遡って少し資料を読み返した時に当初の予算は30何億でできるという数字が出ているが、倍以上になってもまだできなくなったのかとこれだけの時間はなんだったのだろうというふうに感じていたから思わずあの発言をしてしまった。

【会長】

今本当に物価が上がっている。

今日は私の代わりに委員にまとめをお願いします。

【委員】

とりあえず練習室は絶対必要というのは皆さんの統一の意見だと思うが、別の観点から、創造支援機能のためには絶対必要じゃないかと思った。今までもそうだったとは思いますが、これからの文化施設というのはホールで何かをやるということだけじゃなく、いかに市民の中で創造する活動を広げるかという機能がより重視されていくというのが現在の動向だと思う。それから考えると創造支援機能を細らせるというのは元々のこの文化施設の機能を細くすることにならないかとの懸念を持つ。もう1点、民間が運営する時に貸し出せる施設が多い方が良くないかという観点もあり、そこで市内の会議室の稼働率があるので稼働率低いから作らないほうがいいって話なのか、新しくできて民間がお金を取って貸し出してそのお金が無いと運営資金にならないという、会議室や練習室として貸し出せるものが多い方が民間は使いやすいのかどうかは検証していただいたほうが良いという2つの観

点から思う。

民間が入るということで皆さん多少不安があると思うが、基本的にはこういう性能のこういう施設を運営するためという皆さんが作った計画の大前提があったうえで民間がそれをいかにうまく生かせるかが大前提なので、民間が何かをそれを元に変えるということではなくて、いかにそれを実現するためにどういう方法を入れるのかというのが多分 PFI の考え方ではないかと思う。ただ一方で PFI のどの方式を捉えるかということで全く違ってくると思うので、そのあたりはサウンディングも含めて十分に検討されると思うし、その検討の成果についてはやはりここでご報告いただきたい。

実際には考えられる見直し案の個々について議論する時間が少し足りなかったかというようには思うが、皆さんが今までやってきた基本計画の本当に骨のところは削らずにどれだけ削ることができるのかということをいずれ考えないといけない局面が来るかもしれないが、やはり削ってはならないところ削れるところっていうのは議論がされていくと思うし一方でちょっと不安に思うのはこういうことが、建築設計のプロポーザルの時にどういふふうになっていくかで、当然設計者が選ばれてくると全く違う提案が出てくるといことはかなりあることなので、そのあたりの兼ね合いも含めて少し検討しないといけない部分があると感じた。

【会長】

次回もうちょっと検討しなければならない課題も捉えていただいたんじゃないかと思う。

今日はこのぐらいにしておいてまた次議論したい。

最初に戻るが、ただ紛糾するだけじゃなくてやはり前に進めるためにやっていきたいということで、事務局に反発しているのではなく応援している。

一緒にという気持ちがあるのでぜひやっていきたい。

以上